

リクルート進学総研

一人当たり出願校数の減少続く。進学先「早期決定」が主流派に 総合型・学校推薦型選抜の進学者、9割超が進学に納得

ー高校生の進路選択に関する調査「進学センサス2025」よりー

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：牛田圭一）が運営する『リクルート進学総研』（所長：小林 浩）では、高校生の進路選択を明らかにするため、進路選択行動の時期やプロセスを中心に、進路選択に際しての情報源、学校主催イベント、出願状況についての調査を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。

解説：『リクルート進学総研』所長：小林 浩：P2

進学する大学の志望順位と合格した入試方法：P4

- 第一志望校への進学者は68.5%で、前回から横ばい。
- 総合型選抜と学校推薦型選抜を合わせた「年内入試」による合格での進学者が53.4%と調査開始以降初めて過半数にのびた。「年内入試」による進学者は、一般選抜と共通テスト利用入試を合わせた「年明け入試」（44.2%）を9.2ポイント上回り、主流派に。
- 自身の進路選択に納得しているかを尋ねたところ、合計で87.2%が「そう思う」と回答。特に「年内入試」である総合型・学校推薦型選抜の利用者では91.9%が納得していると回答。

2025年4月大学進学者の進路選択行動概況：P5

- 2022年と比較して、資料請求は0.68校、出願校数は0.30校減。出願校数は2回連続で減少。
- 今年の入学者は「高校2年」時にコロナ禍が収束。3学年累計では、オープンキャンパス参加率が90.3%と、2022年比10.4ポイント上昇。2019年（93.9%）と同水準に戻る。参加校数も2019年と同程度の3.71件まで回復した。

進学先検討時の重視項目：P6

- 1位：学びたい学部・学科・コースがあること（67.3%）、2位：校風や雰囲気が良いこと（31.5%）、3位：自分の興味や可能性が広げられること（28.6%）

進路選択について満足している点・感じた不安や悩み：P7

- 進路選択について、「自分の興味や得意分野にあった進路を選んだ」者が72.8%。
- 一方で検討時には「将来やりたいことがわからない」「自分の興味や適性がわからない」が3割前後と多い。これらの2項目は、性別や入試方法による差が小さく、共通した不安・悩みとなっている。

※調査データの引用をご希望される際は、“「進学センサス調査2025」リクルート進学総研調べ”と明記いただき、弊社までご一報いただけますと幸いです。

本件に関する
お問い合わせ先

株式会社リクルート リクルート進学総研 <https://souken.shingakunet.com/>
※報道関連・マスメディアの方は[こちら](#)よりお問い合わせください。

オープンキャンパス参加率は90.3%とコロナ禍以前の水準に回復 一方出願校数は引き続き減少傾向

オープンキャンパスは「第一志望群から“最終決定”への一步を踏み出す場」に

■解説

<ポイント>

①進学先の絞り込みの早期化と第一志望校への年内入試比率の増加

「年内入試」（総合型選抜・学校推薦型選抜）での入学者が53.4%と過半数を占め、本調査では初めて「年明け入試」（一般選抜・共通テスト利用入試）の44.2%を上回る結果となった。特に年内入試利用者のうち、第一志望校への進学率は67.1%（前回比で+7.6pt）と進学先の“早期決定”がより一般化している中で、合わせて進路選択の納得度も9割以上と非常に高い結果となっている。

②オープンキャンパス参加率はコロナ禍以前近くまで回復

出願校数は2回連続で減少し、平均は2.4校（前回2022年から0.3校減）。一方で、今年の入学者は高校2年生の5月にコロナ禍が収束。3学年の累計では、オープンキャンパス参加率が90.3%と、2022年比10.4ポイント上昇。コロナ禍以前の2019年（93.9%）とほぼ同水準まで戻った。オープンキャンパスの位置づけも徐々に変化し、2019年は「多くの候補から絞り込みの場」、2022年はコロナ禍において「絞り込んだ第一志望の学校の中身を確認する場」、そして2025年は「第一志望群から“最終決定”への一步を踏み出す場」と移り変わっているようだ。

項目	2019	2022	2025	差分 (2019→2022)	差分 (2022→2025)
年内入試入学率	39.1%	47.0%	53.4%	+7.9	+6.4
第一志望校への進学率	53.5%	68.3%	68.5%	+14.8	+0.2
うち年内入試で第一志望に合格した割合	-	59.5%	67.1%	-	+7.6
出願校数平均	3.0校	2.7校	2.4校	-0.3	-0.3
資料請求数平均	5.7校	7.0校	6.3校	+1.3	-0.7
オープンキャンパス参加校数平均	3.9校	2.9校	3.7校	-1.0	+0.8
オープンキャンパス参加経験率	93.9%	79.7%	90.3%	-14.2	+10.6
うち進学先のオープンキャンパス参加経験率	66.9%	71.2%	77.6%	+4.3	+6.4
進学先オープンキャンパス参加時の第一志望率	52.8%	59.8%	52.9%	+7.0	-6.9

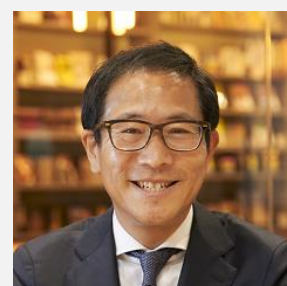
<背景>

18歳人口の減少が進み、特に2030年代には全国的に一段と大きな減少が見込まれている中、2024年度の私立大学全体の定員充足率は98.19%（日本私立学校振興・共済事業団）と過去最低。定員割れの大学が約6割と過去最多となった。大学にとっては、早期における学生確保の重要性が増している。大学の年内入試枠拡大の動きもあり、進路選択の早期化が一層進んでいる。こうした状況の中で、高校生側も進学先の決定を前倒しにする傾向が続いている。進学先の決定の前倒しは進んでいるが、第一志望比率、進路選択の納得度が共に高いことから、安易に決めているというより、志望校に入りやすい状況になっていると言えるのではないかと。また、コロナ禍収束後の高校2・3年時のオープンキャンパス参加率は2019年並みに戻っている。出願校数は減少しているものの、2022年と比較してオープンキャンパス参加時の第一志望率は減少し、参加校数は増えていることから、オープンキャンパスでの新たな志望校との出会いも期待しているようだ。コロナ禍前・中・後でオープンキャンパスの位置づけは変化していると言えるだろう。

『リクルート進学総研』 所長 小林 浩

1988年株式会社リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や『ケイコとマナブ』商品企画マネージャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向（教育問題担当）、会長秘書、大学ソリューション推進室長等を経て、2007年4月より現職。

文部科学省中央教育審議会高大接続特別部会委員、大学分科会高等教育の在り方に関する特別部会委員等を歴任。現、中央教育審議会大学分科会質向上保証システム部会委員。『リクルートカレッジマネジメント』編集長兼務



■ 調査目的：高校生の進路選択プロセス（行動・意識）の現状を把握する

■ 調査期間：2025年3月1日～4月1日・インターネット回答締め切り

■ 調査方法：インターネット調査

※アンケート依頼を郵送、記載のURLからインターネット回答

■ 調査対象：調査開始時点で2025年に高校を卒業見込みの全国の男女22万9999人

■ 令和6年度学校基本調査の「全日制・本科3年生生徒数（県別）」、「中等教育学校・後期課程3年（県別）」を基に、リクルートが保有するリスト（※）より調査対象とする数を抽出

（※）リクルートが保有するリストとは、リクルートが運営する『スタディサプリ』会員リスト

■ 有効回答数：3万9066人（回答率17.0%）うち、本プレスリリースでは大学進学者2万7362人が対象

■ 本プレスリリース内での注意点

※各年の調査はそれぞれ調査方法が異なるため、厳密には時系列比較できない点にご注意ください
 ※調査対象者の在学期間と「コロナ期」との関係は、以下の表をご確認ください。

■ 各年の調査概要

	調査方法	調査期間	対象者	対象者数	有効回答数		プレスリリース内での集計対象
			各年の高校卒業見込みの全国の男女		サンプル数	回収率	大学進学者
2019年	郵送調査	2019年3月18日～4月11日	2019年卒業見込み	50,000人	2,819人	5.6%	2,071人
2022年	郵送調査+インターネット調査	2022年3月4日～4月5日	2022年卒業見込み	210,000人	14,968人	7.1%	10,841人
今回 2025年	インターネット調査	2025年3月1日～4月1日	2025年卒業見込み	229,999人	39,066人	17.0%	27,362人

※調査対象の割付方法は2025年調査同様

■ 在学期間とコロナ期

	在学期間									
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
2019年 調査対象者	1年生	2年生	3年生	※19年3月卒						
2022年 調査対象者				1年生	2年生	3年生	※22年3月卒			
2025年 調査対象者							1年生	2年生	3年生	※25年3月卒
コロナ期					○	○	○			

■ 性別内訳

		調査数				(%)
		男子	女子	その他	無回答	
2025年 大学進学者全体	27362	46.4	52.3	1.3	—	—
2022年 大学進学者全体	10841	44.7	54.3	0.8	0.1	—
2019年 大学進学者全体	2071	47.1	52.4	—	0.4	—

■ 高校所在地エリア

		調査数										(%)
		北海道	東北	北関東・甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	その他	無回答
2025年 大学進学者全体	27362	3.8	6.3	9.4	27.5	13.9	2.4	17.7	8.8	10.2	—	—
2022年 大学進学者全体	10841	3.9	5.9	9.0	27.7	12.9	2.7	19.4	9.2	9.3	—	—
2019年 大学進学者全体	2071	2.9	5.1	9.7	28.7	13.3	2.4	17.9	8.9	10.7	—	0.5

進学する大学の志望順位と合格した入試方法

- 第一志望校への進学者は68.5%で、前回から横ばい。
- 「年内入試」合格での進学者が53.4%と過半数にのぼり、「年明け入試」（44.2%）を9.2ポイント上回る。調査手法や回答形式が異なるため参考値だが、時系列では2回連続で「年内入試」の割合が増加し、今回初めて「年明け入試」の割合を上回った。
- 自身の進路選択に納得しているかどうかを尋ねたところ、合計で87.2%が「そう思う」と回答。特に総合型・学校推薦型選抜の利用者では91.9%が納得していると回答した。

進学する大学の志望順位（単一回答）

								(%)	
		第1志望だった	第1志望以外・計		無回答			第1志望 だった	第1志望 以外・計
			第2志望だった	第3志望以下 だった					
調査数									
2025年	大学進学者全体	27362	68.5		18.4	13.0	0.1	68.5	31.4
2022年	大学進学者全体	10841	68.3		18.8	11.8	1.0	68.3	30.6
2019年	大学進学者全体	2071	53.5		23.8	21.6	1.1	53.5	45.4
【2025年属性別】									
性別	男子	12707	65.3		20.1	14.5	0.1	65.3	34.5
	女子	14308	71.3		17.0	11.7	0.0	71.3	28.6

進学する大学で利用した入試（複数回答）

		調査数	年明け入試・計			年内入試・計			英語外部検定試験	その他	無回答	年明け入試・計	年内入試・計
			一般選抜	共通テスト利用入試		総合型選抜	学校推薦型選抜						
2025年	大学進学者全体	27362	39.8	11.0		18.6	35.8		1.3	5.1	0.1	44.2	53.4
性別	男子	12707	44.7	11.4		16.1	32.4		1.1	4.9	0.1	49.5	47.7
	女子	14308	35.3	10.7		20.8	38.9		1.4	5.3	0.0	39.2	58.6
志望順位別	第1志望	18747	28.9	5.5		23.4	44.9		0.8	5.8	—	30.6	67.1
	第2志望	5042	61.8	20.4		10.0	19.0		1.8	4.1	—	69.2	28.6
	第3志望以下	3551	66.1	27.3		5.5	11.6		3.0	3.0	—	80.7	16.8

進学する大学で利用した年内・年明けの入試比率（2025年：複数回答、2022年・2019年：単一回答）

		<年明け入試>		<年内入試>	
調査数					
2025年	大学進学者全体	27362	44.2	53.4	※複数回答
2022年	大学進学者全体	10841	47.1	47.0	※単一回答
2019年	大学進学者全体	2071	56.9	39.1	※単一回答

※参考：各年の入試方法に関する選択肢

年明け入試	一般選抜・共通テスト利用入試	一般選抜・共通テスト利用入試	一般入試+センター試験利用
年内入試	総合型選抜・学校推薦型選抜	総合型選抜・学校推薦型選抜	推薦入試（公募）+推薦入試（指定校）+自己推薦入試+AO入試

※複数回答のため小計は「いずれか」回答の計

※単一回答のため小計は単純合計

進路選択への納得度（単一回答）

進路選択への納得度（単一回答）							（％）		
		そう思う・計			そう思わない・計		そう思う・計	そう思わない・計	
		とても思う	やや思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない			
調査数									
2025年	大学進学者全体	27362	58.9		28.4	7.8 3.4	1.6	87.2	5.0
【2025年属性別】									
入試方	一般選抜・共通テスト利用・計	12082	49.8		31.9	10.4 5.3	2.7	81.6	7.9
法別	総合型・学校推薦型選抜・計	14614	66.7		25.3	5.6 1.8	0.6	91.9	2.4

- 2022年と比較して、資料請求は0.68校、出願校数は0.30校減。
- コロナ禍の影響が残っていた「高校1年」時点でのオープンキャンパス参加率は2019年・2022年より低め。「高校2年」では65.5%、「高校3年」では73.5%が参加。参加校数も3.71件と、ほぼ2019年の水準に戻った。
- 4月から進学する大学のオープンキャンパス参加経験は引き続き増加し、77.6%が参加（前回比+6.4ポイント）。参加時に「第1志望だった」とする割合は減少したが、「いくつかの候補のひとつだった」が増加しており、進学先として検討する“志望校群”のオープンキャンパスに参加していた様子がみとれる。

■ 興味関心校数・資料請求校数・出願校数・出願件数の平均（数値回答）

	興味関心校数平均	資料請求校数平均	出願校数平均	出願件数平均
2025年 大学進学者	 4.67 (n=27045)	 6.29 (n=24959)	 2.42 (n=27060)	 3.35 (n=27031)
2022年 大学進学者	 5.69 (n=10334)	 6.97 (n= 9736)	 2.72 (n=10308)	 3.80 (n=10016)
2019年 大学進学者	 5.78 (n= 2043)	 5.65 (n= 1944)	 3.04 (n= 2027)	 4.01 (n= 2031)

※各項目とも上記各平均値は、回答欄への記入が「1件(1校)」以上の者を母数として算出している(0や無回答者は母数に含めない)

■ 学校主催のオープンキャンパス参加経験とのべ参加校数の平均（数値回答：参加経験は1校以上参加者の割合）

調査数	高校1年	高校2年	高校3年	無回答	高校3年間トータル (%)
2025年 大学進学者全体 27362	 35.6	 65.5	 73.5	—	 90.3
2022年 大学進学者全体 10841	 41.7	 29.1	 61.7	—	 79.7
2019年 大学進学者全体 2071	 47.3	 71.5	 71.4	6.1	 93.9

※大学進学者のうち 学校主催イベント参加者	調査数	オープンキャンパス 参加校数平均
2025年 大学進学者	24678	 3.71
2022年 大学進学者	8641	 2.92
2019年 大学進学者	1944	 3.87

■ 4月から進学する大学のオープンキャンパス参加経験と参加時の入学意向（いずれも単一回答）

※大学進学者のうち 学校主催イベント参加経験者	調査数	参加した	参加しなかった	無回答
2025年 大学進学者	24702	 77.6	 22.4	—
2022年 大学進学者	8641	 71.2	 28.3	0.5
2019年 大学進学者	1944	 66.9	 27.8	5.2

※大学進学者のうち 学校主催イベント参加経験者 かつ進学先のOC参加者	調査数	第1志望だった	いくつかの候補のひとつだった	場合によっては入学しても良いかなというくらいだった	入学先としては考えていなかった	無回答
2025年 大学進学者	19177	 52.9	 40.0	 5.8	1.3	—
2022年 大学進学者	6152	 59.8	 33.2	 5.4	1.3	0.3
2019年 大学進学者	1301	 52.8	 31.2	 13.5	1.4	1.1

進学先検討時の重視項目TOP3

- 1位：学びたい学部・学科・コースがあること（67.3%）
- 2位：校風や雰囲気が良いこと（31.5%）
- 3位：自分の興味や可能性が上げられること（28.6%）

<2回連続順位が上がった項目> ※（）内の順位は2019年→2022年→2025年の順に記載

- 伝統や実績があること（16位→7位→5位）、有名であること（20位→14位→9位）、教育内容のレベルが高いこと（21位→16位→11位）、活気がある感じがすること（26位→23位→18位）

<2回連続順位が下がった項目> ※（）内の順位は2019年→2022年→2025年の順に記載

- 就職に有利であること（4位→6位→7位）、偏差値が自分に合っていること（8位→9位→11位）、将来の選択肢が増えること（6位→11位→14位）、勉強するのによい環境であること（11位→13位→15位）、学習設備や環境が整っていること（9位→12位→17位）、入試方法が自分に合っていること（13位→17位→19位）

■ 進学先検討時の重視項目 上位20位（複数回答）

順位 2025年	順位		順位変動		進学先検討時の重視項目	2025年 （%） 調査数 27362
	2022年	2019年	2022→ 2025	2019→ 2022		
1位	1位	1位	→	→	学びたい学部・学科・コースがあること	67.3
2位	4位	2位	↑	↓	校風や雰囲気が良いこと	31.5
3位	2位	3位	↓	↑	自分の興味や可能性が上げられること	28.6
4位	3位	12位	↓	↑	教育方針・カリキュラムが魅力的であること	26.2
5位	7位	16位	↑	↑	伝統や実績があること	24.1
6位	5位	5位	↓	→	自宅から通えること	21.6
7位	6位	4位	↓	↓	就職に有利であること	21.3
8位	9位	7位	↑	↓	資格取得に有利であること	20.3
9位	14位	20位	↑	↑	有名であること	20.0
10位	7位	10位	↓	↑	学生生活が楽しめること	16.8
11位	9位	8位	↓	↓	偏差値が自分に合っていること	16.1
11位	16位	21位	↑	↑	教育内容のレベルが高いこと	16.1
13位	19位	14位	↑	↓	キャンパスがきれいであること	14.8
14位	11位	6位	↓	↓	将来の選択肢が増えること	14.5
15位	13位	11位	↓	↓	勉強するのに良い環境であること	14.2
16位	18位	18位	↑	→	専門分野を深く学べること	13.6
17位	12位	9位	↓	↓	学習設備や環境が整っていること	13.3
18位	23位	26位	↑	↑	活気がある感じがすること	13.1
19位	17位	13位	↓	↓	入試方法が自分に合っていること	12.7
20位	15位	17位	↓	↑	社会で役立つ力が身につくこと	11.4
20位	21位	19位	↑	↓	交通の便が良いこと	11.4

※ 2025年の上位20位までの項目を抜粋

※ 2回連続順位を上げた項目

2回連続順位を下げた項目

※図表内順位変動 対前回比

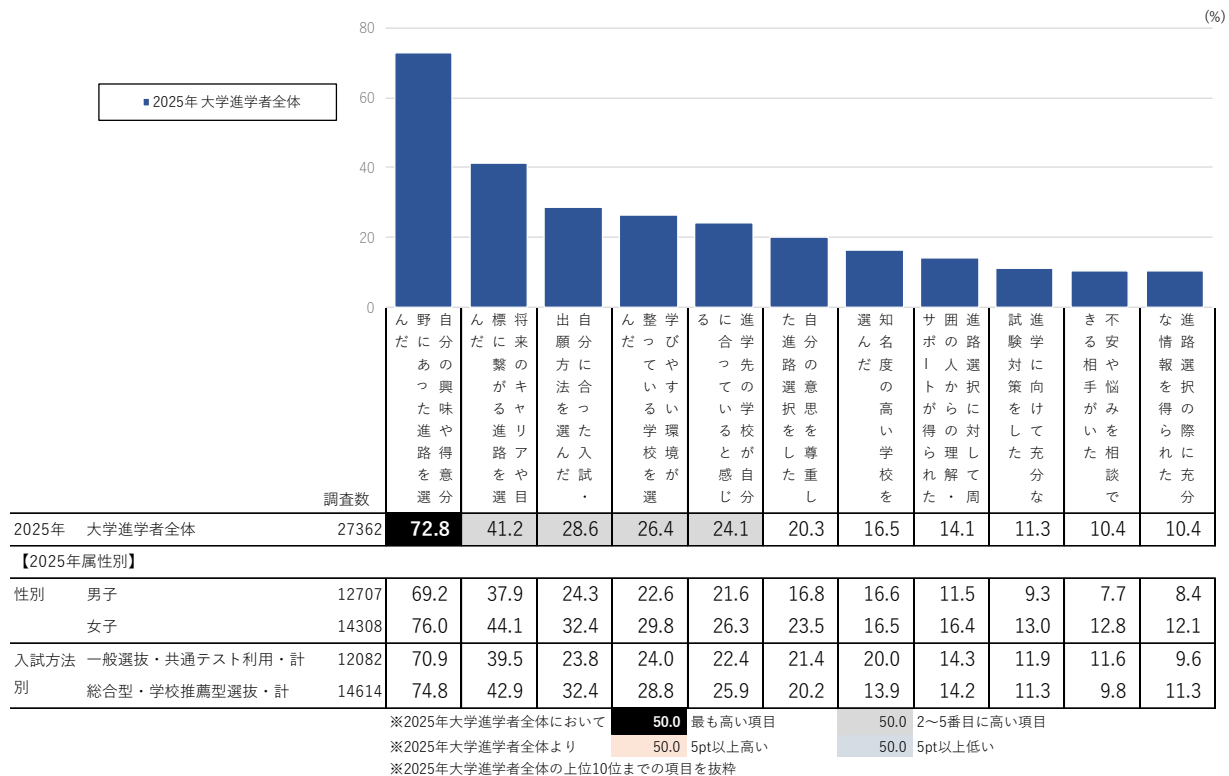
「↑」ランキングアップ 「↓」ランキングダウン

「→」ランキング同じ

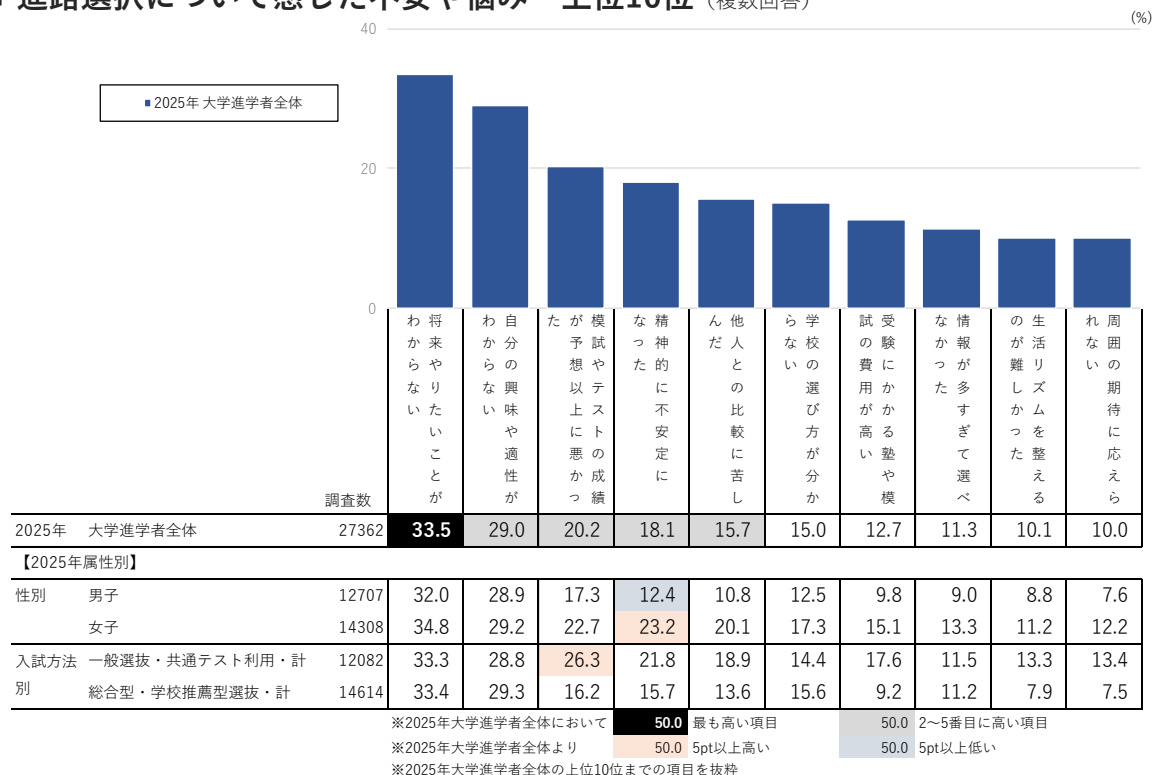
進路選択について満足している点・感じた不安や悩み

- 進路選択について、「自分の興味や得意分野にあった進路を選んだ」者が72.8%。
- 一方で検討時には「将来やりたいことがわからない」「自分の興味や適性がわからない」が3割前後と多い。これらの2項目は、性別や入試方法による差が小さく、共通した不安・悩みとなっている。

■ 進路選択について満足している点 上位10位（複数回答）



■ 進路選択について感じた不安や悩み 上位10位（複数回答）



リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、人材派遣、マーケティング・マッチング・テクノロジーの3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/>

リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>